

夢のかけはし



子どもたちの
笑顔のために
全力で向き合おう。

平成元年生まれ。3歳から柔道を始め、鹿屋東中学校、龍谷大学（京都府）在学時に全国大会への出場経験を持つ。奈良育英中学高等学校での講師・柔道部顧問を経て、鹿屋養護学校に勤務した後の今年4月、白崎町に「放課後等デイサービス笑光」を開設。（30歳）

放課後等デイサービス事業所で、障がいのある子どもたちの自立を支援するために、柔道療育を取り入れています。

柔道療育とは、柔道を通して適度に運動することで、睡眠など生活習慣の改善やコミュニケーション力の向上などを図る療育のこと。1日6〜7人の子どもたちが利用しています。

奈良県の中高一貫校に勤務しているとき、板書がうまくできなかったり、授業中に落ち着きがなかったりする子どもと接する中で、「将来社会に出るこの子たちのために、私自身が教師としての技術や知識をもっと学ばなければいけない」という気持ちが芽生え

始めました。

その後帰鹿し、勤務していた鹿屋養護学校で、余暇活動に柔道を取り入れてみました。すると、自身の気持ちをうまく表現できない子どもが、勝負に勝ったら喜び、負けたら悔しがったのです。それまで競技としての柔道が中心でしたが、障がいのある子どもたちの自立支援のために、柔道を取り入れることはできないかと考えるようになりしました。

柔道療育は日本での例がほとんどなかったため、先進地のフランスに2度渡って学んだ後、事業所を開設しました。道場では、子どもたちに対して全力で向き合おうとを心掛けています。

「柔道療育」に取り組む

う ち む ら か な
内村 香菜 さん

子どもたちの調子にはそれぞれ波があり、毎日が思いどおりにいくわけではありません。それでも、礼ができるようになり、他の人を気遣えるようになるなど、日々の成長を感じます。また、純粋に柔道を楽しむ姿から、逆に学ぶことも多いです。

子どもたちには、自分に自信を持つて胸を張って社会に出ていくように、強く優しく育ててほしいです。柔道療育がその手助けになればいいと思います。

また、柔道療育や運動療育をもっと多くの人に知ってもらい、このような子どもたちが、いろいろな運動に触れ合える環境が広がってほしいです。



【右】常に声掛けを行いながら笑顔で組み合う内村さん。
【左】「親しみやすいデザインで、見る人が笑顔になるように」との思いが込められた事業所のロゴマーク。

12月17日（火）9時5分から FMかのや に 内村 香菜 さんが出演